

## ケータイアプリを利用したモブログの提案と検証

佐藤大輔<sup>†</sup> 片岡信弘<sup>†</sup>  
東海大学工学研究科電子工学専攻<sup>†</sup>

ブログ（ウェブログ）サービスは2001年、アメリカ同時多発テロの際に欧米のマスコミで注目され、日本の一部マスコミでもその名前が登場した。2003年頃から日本でも知名度が上がり、大手ISPやポータルサイトの付加サービスになっていった。今日では、携帯電話をターゲットとするブログの新サービス「モブログ」が相次いで発表されていて、携帯電話からブログに投稿したり、ブログを携帯電話から閲覧したりするサービスが増えつつある。携帯電話とブログは親和性の高い組み合わせだが、今後利用価値を高めていくには、使い勝手の改善なども必要と考えられる。そこで本稿では携帯電話の機能の一つであるiアプリを用いたブログ作成支援ツールの提案をする。

### A Proposal of Moblog using Cellular phone application program

<sup>†</sup> Daisuke Sato and Nobuhiro Kataoka  
Graduate School of Electronics, Tokai University

Blog was paid attention in the mass communication in Europe and America, and a part of Japan the name appears in Blog (Weblog) service by 2001 also in the mass communication in American simultaneous multiple terrorist acts. It went up eminence and became the addition service of major company ISP and the portal site also in Japan in around 2003. "Moblog" of the new service of Blog that makes the cellular phone a target is announced one after another today. Service that contributes from the cellular phone to Blog, and inspects it from the cellular phone is increasing. It is thought that the improvement of convenience etc. are also necessary for the raise of the utility value in the future though carrying and Blog are high combinations of compatibility. Then, it proposes the Blog making supporting tool that uses i application program that is one of the functions of the cellular phone in this paper.

#### 1. はじめに

今日、ウェブログは個人ニュースサイトや日記の代わりなどに使われるなど多方面で利用されている。そのウェブログと携帯電話の機能として使用しているケータイアプリを用いたブログ作成支援システムを提案する。ケータイアプリを用いることで携帯電話に付いているカメラ機能や位置情報を有効活用できると考えられる。現在では携帯電話に通信機能を利用することによって場所や時間などのメタデータを付加した形でそれらのイメージをサーバーに置く事で整理、蓄積、公開できるようになった。そのなかでも代表的である携帯電話からブログを書き込む「モブログ」が注目されている。モブログの

利用形態はカメラで撮影された写真やムービーなどのメディアデータを書き込むのがほとんどである。(図1)

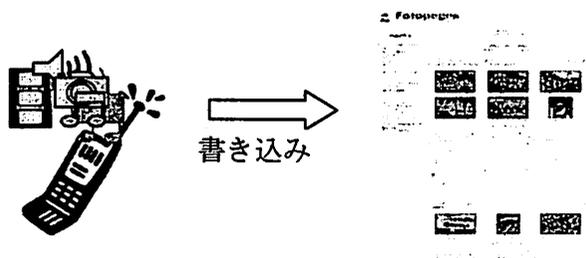


図1 モブログシステム

本稿では、ケータイアプリを NTT ドコモ社の「i アプリ」をシステムの基盤とする。

ある共有ウェブログを仲間内で作成し、そのページを i アプリを用いて作成支援することで、誰でも手軽に楽しくウェブログを作成でき、仲間内でのコミュニケーションを深めることが目的である。また、ネットワーク上だけの見知らぬ人との情報交換の場としての活用も考えている。PC からの更新とは違うモブログの特性を考えてのツールを考える。

## 2. ウェブログ

### 2.1 ウェブログとは

個人運営で日々更新される日記的な Web サイトの総称である。一般的には、単なる日記サイト(著者の行動記録)ではなく、ネットで見つけた面白いニュース記事や Web サイトへのリンクを張り、そこに自分の評論を書き加えた記事が時系列に配置されている Web サイトのこととされているが、厳密な定義はない。また、他者のウェブログに対するコメントを、自サイトの日記のネタとして利用する際に、先方に記事の引用を知らせるとともに、自分の記載したコメントを先方に自動送信する“トラックバック機能”を持つ場合が多い。この機能を利用すると、どちらのウェブサイトからでも相互のウェブログのコメントが参照できるため、単独のウェブログよりも幅広い意見交換が期待できる。

以下にブログの基本技術、コンテンツ構造を示す(図2)。

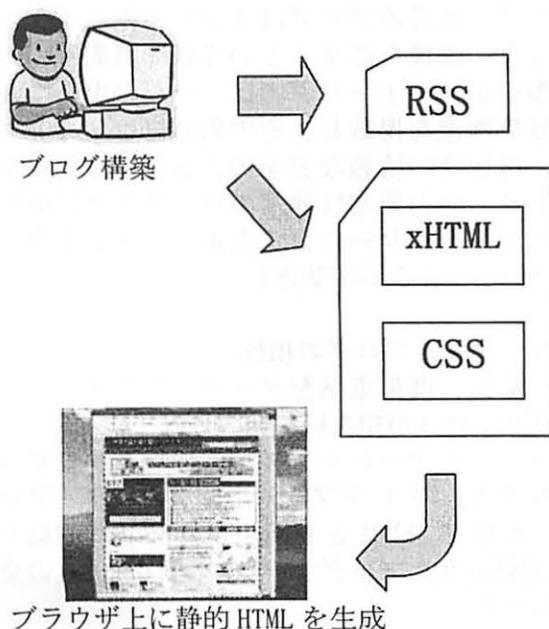


図2 ブログのコンテンツ構造

ブログは、ページの内容(HTML ファイル)とデザインレイアウトのルールを指定するファイル(CSS=スタイルシート)が切り離された構造になっていて、データやデザインの修正は該当するデータやファイルを書き換えるだけですむのである。またページを記載する言語は xHTML(XML 仕様に準じた HTML)で書かれ、WEB サービスとして XML をサポートするブログの通信方式と互換がある。

また、ブログは W3C 標準仕様に沿った文書構造となっているので、もともと SEO に向けた作りとなっているため、検索エンジンの結果の上位に表示されやすくなっている。よって検索エンジンで特定のキーワードから検索された時、自分のブログが読まれる可能性も高くなり、サイトの訪問者も多くなりアクセス数増加にもつながるのである。基本的にブログは誰もが読めるように公開されていて多くの人に読んでもらいたいと思うのでアクセス増えることは筆者にとっていいことだと言える。

### 2.2 ウェブログは何が便利なのか

ウェブサイト更新の手間を従来のウェブサイト構築とウェブログで比較する。

#### (1) 従来のウェブサイト更新

- (a) HTML ファイル作成
- (b) FTP でアップロード
- (c) 公開

と、いったように HTML などの知識があまりない人にとっては高い敷居であり、またホームページを所有している人もサイト更新は非常に手間が掛かる作業だと考えられる。

#### (2) ウェブログの場合

- (a) 記事を書いてボタンを押す
- (b) 公開

と、いったように従来のウェブサイト更新と比べると非常に楽なのである。

ウェブサイトを 1 ページ追加・更新するのにもどれだけ手間が掛かるかと言うと、従来のウェブサイト更新では 1 ページ変えればすむわけではないのである。変えなければならないのは、

- (a) 新しいページ
- (b) 前後のページ
- (c) 目次ページ
- (d) 表紙・What's New

などのページを書き換えなければならないだろう。しかし、ウェブログの場合はほとんど自動でこれらのページを全部更新してくれるので手間が掛からない。

## 2.3 ウェブログツール

ウェブログ・システムは簡単に手間をかけずにサイトを更新できる「ウェブサイト構築ツール」＝「ウェブログツール」である。このウェブログツールは CMS (Contents Management System) の一種であり、ウェブサイトのコンテンツを編集管理するためのシステムである。例えば、ウェブログツール (Movable Type など) ・ wiki ・ ポータルサイト用 CMS (XOOPS など) がある。

## 3. 携帯電話

### 3.1 i アプリ

NTT ドコモの「i モード」対応携帯電話で利用できるアプリケーションサービスであり、「503i」シリーズ以降の対応した携帯電話には、Java 言語で作成したプログラムの実行環境 (Java 仮想マシン) が搭載されており、Java 言語で作成したアプリケーションソフトをダウンロードして実行することができる。

また、i アプリの機能をさらに強化し、より便利に楽しく利用することを可能にしたのが i アプリ DX である。従来の i アプリに課されていた制限のいくつかが緩和され、i モードメールとの連携機能や、電話帳など端末本体に記憶されたデータへのアクセス、「i エリア」の利用などが可能となっている。i エリアとは位置情報を取得し、そのエリア情報から近隣の情報を取得するサービスである。情報とは地図・天気・交通情報・グルメなど様々な情報が取得できる。ただし、こうした機能を使ってウイルスや情報搾取ソフトが開発される危険を避けるため、i アプリ DX を開発・配布できるのは NTT ドコモに認定された「公式サイト」のみに限られている。

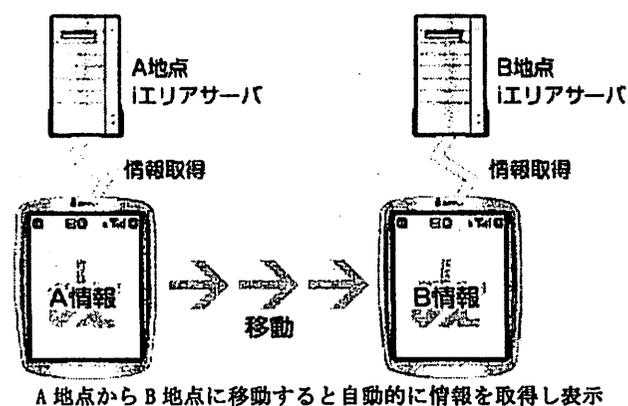


図3 i エリア

## 3.2 カメラ付き携帯電話

2004 年 1 月の段階では、カメラ機能の保有率は約 7 割となっていて、もはや当たり前といっても過言ではないであろう。200 万画素・オートフォーカス・ムービー撮影などの機能があるので、ローエンドのデジタルカメラと遜色なく使用できるのである。

## 4. システムの提案

### 4.1 モバイルウェブログ (モブログ)

1 日の決まった時間にパソコンを使ってまとまった量の文章を投稿する形が多い通常のブログに対し、独特のライブ感覚やテンポの良さがある。内容的にも、「今日の昼ごはん」「街で見かけた変なもの」「電車で芸能人を目撃」など、生活に密着した身近な話題を取り上げる例が多く、記事を書かされているのではなく、自ら更新していると意識すると思われる。

また、パソコンから更新するのと比較して考えられる利点は、「手の空いたときにいつでも更新」「カメラで撮った画像をそのまま添付」など気楽な感覚でブログを書けることなどが挙げられる。PC のように、「いったんデジカメから画像を取り込んで HDD に移して…」といったプロセスが省略できるのが強みの一つであると考えられる。

ブログは日記というか時記のようなものになるだろう。恐らく 1 日単位と言うものではなく、もっと頻繁な更新頻度によって更新される点で、これまでのウェブ日記とは違う方向性になっていくだろう。

写真画像を主体としたウェブログをフォトログと呼び、通常のブログは文章を主体にイラストや写真の画像を添えるという新聞紙面風の体裁が多いが、フォトログではページの中心に大きな写真画像を掲載し、その周りにコメントや解説、撮影時の情報などを添えるという体裁を取る。その他の要素は通常のウェブログに準じ、時系列やカテゴリーによる表示、コメントやトラックバックなどが実装される。

### 4.2 ケータイとブログの相性

ここ最近、携帯電話をターゲットとするブログの新サービスが相次いで発表されている。

NTT コミュニケーションズが、ブログサービス「ブログ人」の i アプリ対応版「ケータイブログ人」を発表。KDDI と Duogate が au 携帯電話と PC を連動させたブログサービス「DUOBLOG」の発表を行った。

携帯電話からブログに投稿できる「モブログ

グ」には、すでに多くのブログサービスが対応している。NTT レゾナントの「goo ブログ」やマイクロソフトの「MSN スペース」のように携帯電話からの閲覧機能を積極的に用意するブログサービスも少なくない。これまでも携帯電話とブログは接近しつつあり、ケータイブログ人やDUOBLOGはその流れに乗るものだ。

ブログは「コミュニケーション」「コミュニティ」「メディア」の3要素がミックスされたツールであり、その魅力は情報量の多さと多様性、扱いの手軽さにある。その本質は携帯電話と重なる部分が多く、「ケータイとブログ」は相性のいい組み合わせである。また、カメラ内蔵携帯電話の普及率が高い日本市場ならば、昨年米国で人気の「Flicker」のような、写真を中心にしたサービスも有望なのである。

#### 4.3 現状

実際にモブログを使ったユーザーならわかると思うが、携帯電話からのブログ利用は、操作性や閲覧性、レスポンスといった面で、PC に比べて使いにくい。また、画面の小さい携帯電話でも使いやすい検索サービスや、更新されたサイトを教えてくれる RSS リーダー機能、ユーザーの趣味に合わせたリコメンド機能なども必要になってくるだろう。RSS リーダー機能は昨年 jig ブラウザが実装したが、一般ユーザーの携帯ブログ利用が増加していくことを考えれば、携帯向けブラウザが標準搭載してもいい機能といえる。

また、書き込みをする際は URL を打ち込んでサイトにアクセスする形になる。ネットワークに繋がらないうちの状態なので電波の届きにくい場所(地下・スキー場)ではネットワークにつながりにくく、送信の失敗や接続時間エラー等でブログの更新が出来ないことも考えられる。電車などの公共機関を利用している場合では社会的問題によりネットワークを利用するのも考えなくてはならない問題であろう。また、撮った画像の場所に行って見たいなどの要求に関しても、詳細な場所が教えられないといったことも考えられる。

#### 4.4 提案内容

図4にシステムの全体構成を示す。想定しているシステムは、ケータイアプリを用いてウェブログの記事を書き、カメラで撮った写真を添付し Web Server に送る。本稿では、システムはユーザー数や開発環境から NTT ドコモの i アプリとする。メールや Web サイト経由でウェブ

ログを更新する手法は現在でもあるが、アプリケーションとしてはほとんどなく新しいプラットフォームになると考える。また、更新の際に i エリア情報を使い、写真の撮った場所のエリア情報を付加する。そして Web Server 上にウェブログツールを設置し、アプリから投稿することによって自動更新するのである。ウェブログツールは現時点で拡張性や使い勝手を考え Movable Type を使用する。現状で挙げた電波の届かない場所、更新を考えなくてはならないような場所に関しては、記事を書いてアプリ側に保存し、後ほど更新するといった手法をとる。

サービスやアプリケーションとして、携帯電話の特性を捉えた情報のインプットとアウトプットを考えると、様々な利用価値があり、今後も発展していくと考えられる。i エリアの機能を使い、画像(メディアデータ)などに位置情報を持たせ、モブログした場所がどこで行われたかが分かるようになる。これはつまり自分の居場所を知らせれば、過去にその場で行われたモブログの情報を引っ張り出すことも可能になり、場所に応じた情報の収集をモブログで行うことが出来るようになると考えられる。

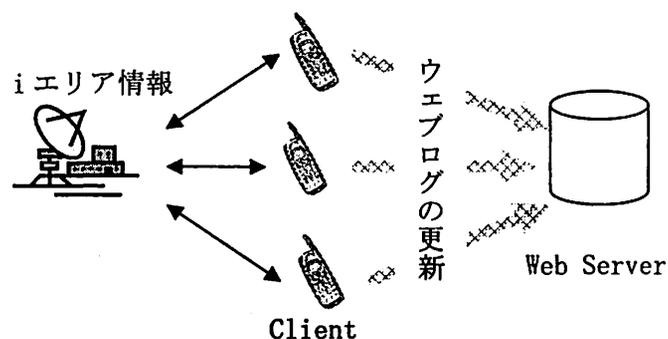


図4 システムの全体構成

#### 5. 評価・検証

本システムを一定期間使用してもらい、既存のブログサービスとの比較を考えている。比較内容は、「操作しやすさ」「見易さ」などのユーザビリティ的なものと、「楽しさ」「飽きなさ」などの作業的な仕事とならないような項目を評価項目として挙げる。評価は被験者によるアンケートの5段階評価とヒアリングによるものと考えている。

現状では、モブログへ投稿する際の方法として以下のものが挙げられる。

##### (a) メール形式

題名・本文を書き、添付したいメディアデータを指定されたメールアドレスへ記事を送り、

投稿する方法。

(b) Web サイトアクセス形式

指定された URL へアクセスし管理画面からログインし記事を投稿する形になる。

(c) アプリケーション形式

専用のアプリケーションをダウンロードし、そのアプリケーション内で記事を書き投稿する形となる。

まずメール形式だが、メディアデータを添付し、題名・本文を書いてメール送信するだけで投稿が反映できるのはいいと思うがブログを書いているという意識があまりなくただ単調な作業になってしまうのではないかと思われる。

次に Web サイトアクセス方式だが、まず最大の問題点は電波の届かないところでは一切更新が出来ないところにある。それによって更新できないことによりブログを書く機会を失ってしまい意欲がなくなるのではないかと思われる。

アプリケーション方式だが、ソフト立ち上げに多少の時間はかかるかもしれないがアプリとしてブログを書くことが楽しさへとつながり、書き込み・閲覧等が簡単に出来るのではないかと考える。

現在は、アプリケーション形式でモブログサービスを実装しているサイトはほとんどないのでメール形式と Web サイトアクセス方式との比較をし、前述で挙げた項目を評価として比較をする。

## 6. まとめ

本提案では、i アプリとウェブログの機能を利用してコミュニケーションを図るシステムの提案をした。メール方式・Web サイトアクセス方式とは違うケータイアプリケーションとしてのモブログのとしての一提案をしたが、アプリケーションとしてはモブログサービスを行っているサイトが少ないため、評価が他の 2 方式との比較になり適切な評価は得られなかったかもしれない。その点に関しては今後アプリケーションとしてのモブログサービスが多く登場することを望んでいる。

しかし、現段階ではシステムは構築途中であり、想像の範囲での議論なので本稿で提案したシステムを構築し、実現性・技術的有効性を示したい。

Web Server 内に 1 つの共有ウェブログを設置するだけでなく 2 つ、3 つと複数の共有ウェブログを設置し、トラックバック機能を使えば他のグループメンバーとの情報共有も可能になるであろう。今回、i エリアをエリア情報として使用

すると提案したが、GPS を使用すればもっと正確なエリア情報を得られるだろう。メディアデータを取得した場所だけではなく地域の情報を収集するニーズは今後多く出てくると推測される。しかし NTT ドコモ社では GPS 搭載携帯電話は一部の機種に限られているので、標準搭載することを期待する。

日本の携帯電話普及台数は約 8600 万、そのうち約 7500 万台が i モードなどコンテンツサービスに対応している。携帯電話だけでも簡単かつ快適に利用できるブログサービスが登場する事で、ブログの情報価値とビジネスの可能性は大きく拡大するだろう。

## 参考文献

- [1]NTT ドコモ <http://www.nttdocomo.co.jp/>
- [2]さかきけい 著 “Java for i アプリ” 株式会社ピアソン・エデュケーション
- [3]携帯電話の利用に関する調査Ⅱ(株)イブシマーケティング研究所  
[http://www.ipse-m.com/report\\_csmr/report\\_c4/IPSe\\_report4.pdf](http://www.ipse-m.com/report_csmr/report_c4/IPSe_report4.pdf)
- [4]ウェブログって?  
[http://kotonoha.main.jp/weblog/000037\\_weblogfaq.html](http://kotonoha.main.jp/weblog/000037_weblogfaq.html)